

平成30年度 教育講演会 講師：渡部陽一氏 (戦場カメラマン)

命を大切に 可能性を信じて



1972年9月1日、静岡県富士市生まれ。静岡県立富士高等学校、明治学院大学法学部卒業。戦争の悲劇とそこで生活する民の生きた声を体験し、世界の人々に伝えるジャーナリスト。

十一月八日(木)、平成三〇年度教育講演会が行われた。今年度は、戦場カメラマンの渡部陽一氏をお招きして、「命を大切に 可能性を信じて」という演題のもと、丁寧かつ熱のこもった講演をしていただいた。生徒一人ひとりの心に響き、今、世界で起きている様々な問題に目を向けるきっかけとなっただろう。

渡部さんは講演の中で、「国同士の戦争はその国同士では止められない。第三者の立場で手を差し伸べるのが大切なのだ。そして手を差し伸べるためには、相手のことを知る事が最も必要だ」とおっしゃっていました。私はこの話に深く共感しました。また、悲惨な現場取材が続いている渡部さんの心の強さにとっても驚きました。渡部さんから聞いた数々の貴重な話を忘れずに、今後世界で起きる出来事も他人事と思わず、知るための努力をしていこうと強く思いました。(一の三) 小濱拓史

今回の講演会は主に三つのテーマに沿って進められた。一つ目は渡部さんが戦場カメラマンになったのは、学生時代、授業で知ったピグミー族のいるアフリカに一人で旅に出たことがきっかけであったということ。二つ目はカメラマンとして外国で出会った一人の少女について。そして三つ目は生徒とのディスカッションだった。渡

部さんは何年か前にメディアで見たことがあって、実際にどのようなお話を聞けるのか楽しみでした。渡部さんというテレビでは喋り方が特徴的というイメージでしたが、実際にも腰を低くして大きく腕を広げながらゆっくりと話し始めました。紛争地帯で撮影した写真や動画を見ながら渡部さんは注意深く言葉を選びながら話していて、戦場の悲惨さを真剣に伝えようという強い気持ちが伝わってきました。私も今、大学受験に向けて面接の練習をしていて、人に物事を伝える上で、渡部さんのような真剣さや熱意はとても大切なことであると感じました。(二の二) 伊藤春香

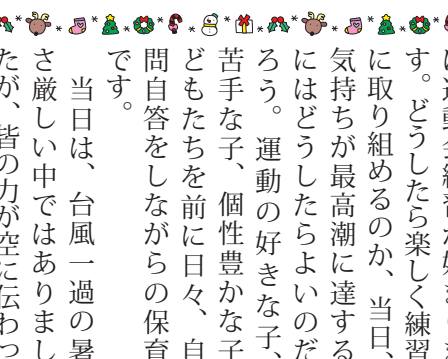
渡部さんは講演の中で、「国同士の戦争はその国同士では止められない。第三者の立場で手を差し伸べるのが大切なのだ。そして手を差し伸べるためには、相手のことを知る事が最も必要だ」とおっしゃっていました。私はこの話に深く共感しました。また、悲惨な現場取材が続いている渡部さんの心の強さにとっても驚きました。渡部さんから聞いた数々の貴重な話を忘れずに、今後世界で起きる出来事も他人事と思わず、知るための努力をしていこうと強く思いました。(一の三) 小濱拓史

浅草校外研修

十月一日(月)から三日(水)にかけて、高校一年生の校外研修が実施された。生徒たちは浅草演芸ホールにて落語鑑賞の他、浅草寺や仲見世通り、東京スカイツリーなど浅草周辺の観光を楽しんだ。漫談、切り絵、曲芸など日本の伝統文化に触れ、新たな価値観を育む上でも貴重な一日となった。

私は落語家の話し方や演技に圧倒されました。初め落語は、何度も見ないことのある人や知識を持った人でないと話についていけず、楽しむことができないものだと思っていました。しかし、私のような初めて寄席に行く高校生にもわかりやすい内容と言葉巧みな話術で、会場全体が笑いに包まれていました。印象に残っ

たのは、本題に入る前の「マクラ」という短い話です。最近の流行や体験にオチをつけた話を聞き、落語家が普段から多くのことに目を向けているということに感心しました。また、凝った衣装や大がかりな舞台装置を使用せず、扇子と手ぬぐいだけで話の内容を表現しているところにも、日本の伝統芸能の素晴らしさを感じました。(一の二) 井上孟哉



浅草校外研修の思い出の写真。

平成三〇年度 二松學舎大学 全国学生・生徒文芸コンクール

書評部門・優秀賞 新井七海 (二の八)

辻村深月著『かがみの孤城』という作品の世界観を視覚的に表現したイラストと、本を実際に手に取りたいくなるような書評のポップを作成し、優秀賞を受賞しました。何度も推敲を重ね、初めて書評ポップを作成したのですが、今回の受賞で自分のデザインや文章が評価され、自信になりました。

東洋大学環境科学部主催 平成三〇年度 第九回 「私が考える食育」作文コンテスト

審査委員長賞 徳山和希 (二の二)

「忘れられない味」というタイトルで作文しました。学校で世界の貧困問題について学んだその日の夕食は、多くの動物の命や自然からの恩恵ももたらしていると思うと感慨深いものでした。毎日の食事を当たり前のものと思わず、感謝の心をもって、一口ずつ食べ物と向き合います。

輝け！ 東高生

第五回 福岡女学院 短歌コンクール

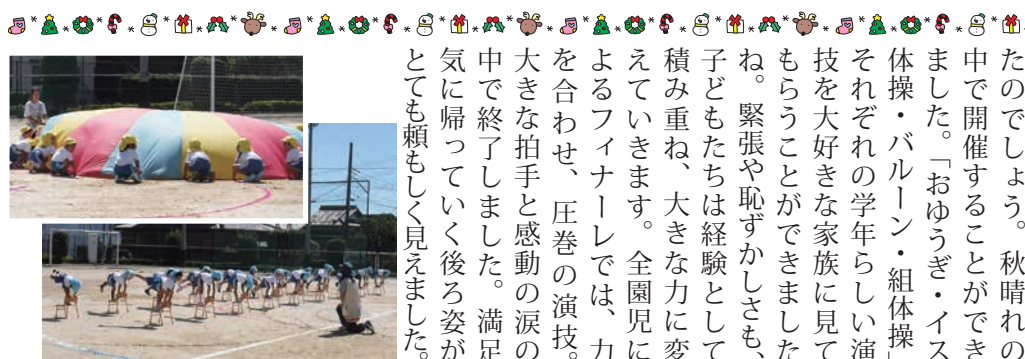
高校生の部・奨励賞 岩佐憲伸 (二の四)

父さんのインシヤルAIなんだけど勝てるころは脂肪の量かな

これまで短歌や俳句を作る機会はありませんでしたが、今回はクラスの夏休み課題として創作し、応募しました。この作品は家族との何気ない会話から思いついて、あつという間にできあがりました。一万点以上の応募作品の中から自分の作品が選ばれたことを嬉しく思います。

「税に関する高校生の作文」入選者

関東信越国税局長賞 3の11 下山 菜月
埼玉県租税教育推進協議会長賞 3の2 佐藤 真生子
本庄税務署長賞 3の11 山田 和佳
3の2 堀内 真悠
本庄児玉地区租税教育推進協議会長賞 3の3 八木 悠介



夏休みの活動の様子。

当日は、台風一過の暑さ厳しい中ではありますが、皆の力が空に伝わったのでしよう。秋晴れのなかで開催することができました。「おゆうぎ・イス体操・バルーン・組体操」それぞれの学年らしい演技を大好きな家族に見てもらうことができました。緊張や恥ずかしさも、子どもたちは経験として積み重ね、大きな力に変えていきます。全園児によるファイナルでは、力を合わせ、圧巻の演技。大きな拍手と感動の涙の中で終了しました。満足気に帰って行く後ろ姿がとても頼もしく見えました。

本庄高葉幼稚園だより

園長 遠山純子

夏休み明けから本格的に運動会練習が始まります。どうしたら楽しく練習に取り組めるのか、当日、気持ちが高ぶるに達するにはどうしたらよいのだろう。運動の好きな子、苦手な子、個性豊かな子どもたちを前に日々、自問自答をしながらの保育です。